

タフな課題に立ち向かわざるを得ない、この国のユニバーサルアクセス段階の  
大学図書館の現状と将来

やまもと・じゅんいち

(桃山学院大学)

1. はじめに

学校基本調査

高等教育の大衆化と見かけのうえでの平準化、分極化

2. 子どもたちの生活と学習、大学教育

自由時間は3時間超

3. 大学図書館の現状と課題

学術情報基盤実態調査

大学図書館は、‘成長する有機体’か

図書館業務の現状と利用者ニーズ

4. 大学図書館の近未来

*Futures Thinking for Academic Librarians: Higher Education in 2025* (ACRL,  
2010) を手がかりに

5. むすび

「読書ブログ 栞輪(しおりん)」  
でつながる学びの空間

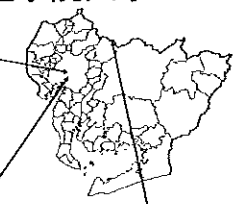
私立大学図書館協会  
2011年度西地区部会研究会  
2011年9月15日(木)  
研究発表  
清水理紗子 (名古屋学院大学 学術情報センター)

名古屋学院大学


さかえサテライト  
資料室  
大学院(通学・通信)  
院生数:175名

名古屋キャンパス  
学術情報センター  
3学部(経・商・外)  
学生数:4,421名

瀬戸キャンパス  
図書館  
2学部(スポ・リハ)  
学生数:804名



豆本の折り方  
「栞輪ができるまで。」



Youtube : <http://www.youtube.com/watch?v=ayRw1f7b2hA>

素敵な本と出会える舞台



素敵な本と出会える舞台(1)

学生による企画展示

<3F・図書館>

2010年11月～2011年3月	東海地方出身作家展
2011年4～6月	ファンタジー特集+児童文学
2011年6～10月	なごや本屋さんMAP
2011年7～9月	夏休み直前企画～理想のBodyとは?～
2011年8～12月	おとことおんなの人間学
2011年10～12月	NGU音楽フェス

<4F・ラーニングcommons>


2010年11月～2011年3月	IT関連最新技術書展
2011年4月	PC関連入門書特集
2011年5～6月	SNS特集
2011年7～8月	PC資格本
2011年9～10月	デザイン特集

Youtube  
名古屋学院大学  
チャンネル

素敵な本と出会える舞台(2)

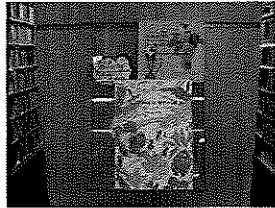
展示

新生活応援  
読書週間(国民読書年)  
夏休み旅特集  
本屋さんツアー展  
COP10展  
ノンフィクション特集  
クリスマス展示  
栞輪&読書会オススメ本  
COOL JAPAN～日本の魅力～



### 素敵な本と出会える舞台(3)

- POP作り  
オススメ本のPOP&ポスター作り  
毎月、担当の棚を変えて本をオススメします



### 人と人がつながるステージ

### 人と人がつながるステージ(1)

- 本屋さんツアー(国民読書年企画第一弾)
- |     |   |
|-----|---|
| 日時  | 2011年6月30日(水)午後   |
| 場所  | 丸善 名古屋栄店  |
| 参加者 | 8名(学部生4名、留学生別科4名)   |
| 選書  | ・学習の助けとなる本、読みたい本、<br>オススメの本、図書館にあってほしい本                           |
|     | ・COP10関連図書  |
| 事後  | ・自己紹介のPOP作成<br>・オススメ本ベスト3のPOP作成<br>・2011年9~10月 本屋さんツアー展<br>COP10展 |

### 人と人がつながるステージ(2)

- 読書会「じゃあ、読もう。」(国民読書年企画第二弾)
- |     |                             |
|-----|-----------------------------|
| 第一回 | 七夕読書会(7名)                   |
| 日時  | 2010年7月7日(水)                |
| テーマ | 「オススメ本」                     |
| 第二回 | 秋の読書会(12名)                  |
| 日時  | 2010年10月20日(水)              |
| テーマ | 「大学生にすすめる本」                 |
| 第三回 | クリスマス読書会(6名)                |
| 日時  | 2010年12月15日(水)              |
| テーマ | 「クリスマスにプレゼントしたい本、<br>されたい本」 |



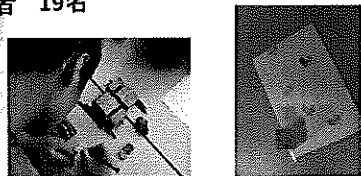
### 人と人がつながるステージ(3)

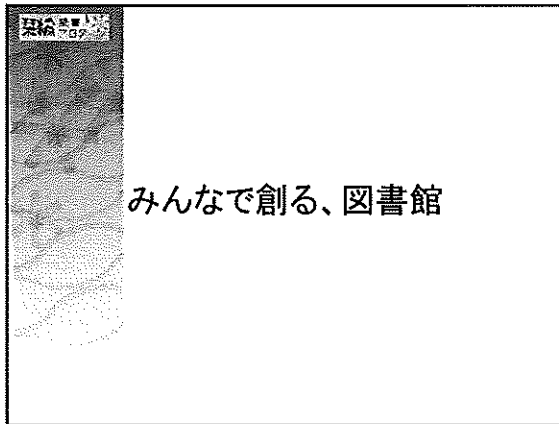
- 豆本作り(国民読書年企画第三弾)
- |     |                         |
|-----|-------------------------|
| 日時  | 2010年11月10日(水)午前・午後 全2回 |
| 講師  | 田中菜(豆本作家)               |
| 参加者 | 12名(午前6名、午後6名)          |



### 人と人がつながるステージ(4)


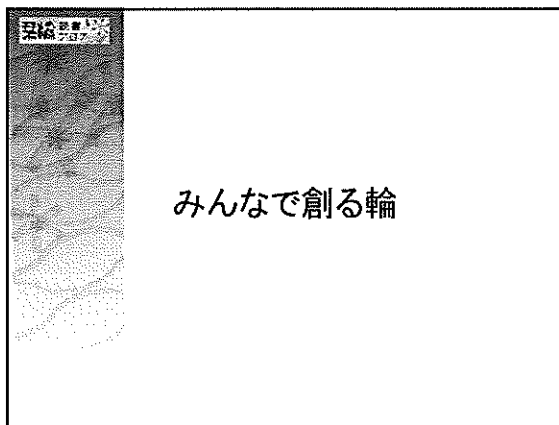
- ガリガリ絵はんこ作り(国民読書年企画第四弾)
- |     |                   |
|-----|-------------------|
| 日時  | 2010年12月1日(水)午後   |
| 講師  | カキノジン(ガリガリ絵はんこ作家) |
| 参加者 | 19名               |






みんなで創る、図書館

- 学生サポーター
  - <名古屋>
    - 2010年度 10名(学部生6名、院生4名)
    - 2011年度 10名(学部生6名、院生4名)
  - <瀬戸>
    - 2010年度 5名
    - 2011年度 4名

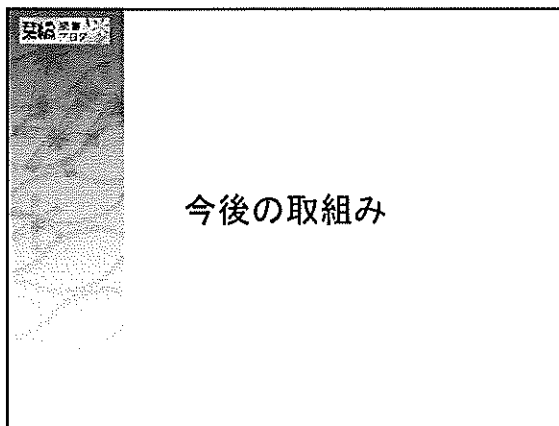



みんなで創る輪

- 葉輪



名古屋と瀬戸、人と人をつなぐ空間



今後の取組み

- 学生サポーターだけでなく、全学生、教職員が参加する図書館づくり
- 名古屋、瀬戸をつなぐ展示やイベントの開催  
例) 移動展示、全館挙げての催し
- 授業との連携、他課との共催
- 学生と共同で、古本市の開催

読書ブログ

ご清聴ありがとうございました

毎日更新しています！

読書のブログ

投稿

検索

<http://blog.nyu.ac.jp/dokusho/>  
名古屋学院大学 学術情報センター

訊かれる図書館を目指してーラーネッド記念図書館の取り組みー

同志社大学図書館 齋藤 道子

同志社大学には今出川図書館（京都市）、ラーネッド記念図書館（京田辺市）の2つの図書館があり、それぞれの所在するキャンパスで学ぶ学生を対象としてサービスを展開している。今回ご紹介するのは、1986年に田辺キャンパス（現 京田辺キャンパス）がオープンした際に開館したラーネッド記念図書館である。全学部の1・2年生が学ぶキャンパスの“学習用”図書館としてスタートした。3・4年生のいないキャンパスはどちらかといえば高校の延長。建物規模は大きくとも資料は入門書を中心に揃えたこじんまりとした印象の図書館であった。

京田辺キャンパスには工学部が移転し、また理系、文理融合の新たな学部が設置されたことで図書館に対する期待も大きくなった。2000年にはいった頃から、情報リテラシー教育関連の求めと図書館による提供資料の多様化（データベース、電子ジャーナルといった電子コンテンツ類の提供など）に伴い、利用者向けの各種講習会を実施してきた。やがては同志社大学の導入科目との提携により年間3000人を超える学生が参加する各種講習会（『情報探索の技』）を実施し、現在に至っている。

大学図書館は「情報を提供」する場から学生の「学習を支援」する場へとサービスの内容は複雑化しているように見える。身近になったPC、インターネットの普及、電子ジャーナルやデータベースの導入が図書館の存在価値を希薄にしているという印象がある。ユニバーサル化や学習意欲の低迷などにより、大学での学びに興味を持ってない学生も多い。このような状況において、図書館員は図書館の枠組みの中だけで、図書館の活性化、利用促進を考えてはいけなのではないかという思いから、ラーネッド記念図書館での学習支援を検討し、利用者相互に刺激をうける学習空間の提供へと新たなスタートを切った。2010年にスタートした学習空間 Co☆labo とその活用、レファレンス応用 Learned's Choice の取り組みを報告する。

「学生の学びをサポートする大学図書館の役割と使命：武庫川女子大学における取り組み」

武庫川女子大学附属図書館 川崎安子

2008 年の中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて」(答申)においては、各大学が 3 つの方針(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)を明確化し、その実現に向けて教育活動を実践・展開していくことが必要であると謳われている。しかしながら現実には、「大学で何を学びたいのか?」という質問に明快に答えられない学生が多く存在する。そのような学生の学習意欲を喚起するためには、的確な動機づけと継続的な働きかけが必要だ。

本学図書館ではこれまで、他の多くの大学と同様、新入生や上級学生を対象にしたオリエンテーションなどの情報リテラシー教育を行い、教員の授業をサポートしてきた。折しも 2010 年 12 月には文部科学省「大学図書館の整備について(審議のまとめ)ー変革する大学にあって求められる大学図書館像ー」が公開され、図書館員による学習支援及び教育活動への直接の関与が、大学図書館に求められる機能と役割のひとつであると明言されている。そこで本学では「活字に強い女性の育成」を掲げ、学ぶ喜びを体感できる環境づくりと教職協働による学習プログラムの開発を進めている。

今回の研究発表では、大学を取り巻く教育改革の文脈のなかで、2010 年度より本学が実施してきた以下の取り組みと今後の展開について報告する。

<2010 年度>

0. 武庫川女子大学附属図書館の理念と目標の策定
1. 図書館利用サービスの拡大
2. 卒業生コーナーの設置
3. 震災コーナーの設置

<2011 年度>

4. 学生を主体にした講演会
5. 読書プロジェクト

<今後の展開>

6. アカデミック・スキルズ入門講座
7. 図書館司書課程との協働

## 広島県大学共同リポジトリ (HARP) の今

広島経済大学図書館 岡崎 純子

国内における機関リポジトリは、2005年に千葉大学が国内ではじめて正式公開して以来、ここ数年で着実に数を増やしており、2011年6月現在、144<sup>1</sup>(181機関)の機関リポジトリが存在する。機関リポジトリは、学術情報の積極的な発信、社会に対する説明責任の保証、知的生産物の長期保存などの役割を果たすものとして、今後ますます重要になると考えられる。しかし、その構築・運営には、多額の予算の確保やシステムを管理できる人材が必要で、中小規模の機関においては機関リポジトリを構築する際の障壁となっており、私立大学で機関リポジトリの構築が遅れている要因の一つとなっている。そこで、複数機関でサーバやソフトウェア等を共有し、各機関の負担を軽減することにより、中小規模の機関でも機関リポジトリを構築できるようにしたのが共同リポジトリである。

広島県では、2008年に広島県大学図書館協議会の事業の一環として広島県大学共同リポジトリ(HARP)を公開し、今年で4年目を迎える。現在13機関が参加しており、コンテンツの登録総数は6,448件(2011年6月末現在)である。人員や予算に限られる厳しい状況の中でも、このように登録件数を増やしてきた背景には、国立情報学研究所のCSI委託事業の受託や広島県大学図書館協議会の事務局である広島大学の強力なサポートがある。更に、業務を遂行するに当たっては、メーリングリストによって互いの知識や技術を情報交換し、年に数回勉強会を実施するなどコミュニティの果たした役割が大きい。こういった取り組みを報告することによって、少しでも多くの私立大学が機関リポジトリを構築されることを願っている。

---

1. 共同リポジトリを全体で1と数える場合の数。NII「国内の機関リポジトリ一覧」より  
<http://www.nii.ac.jp/irp/list/>  
共同リポジトリの参加機関を含めると181機関となる。NII「IRDBコンテンツ分析」より  
<http://irdb.nii.ac.jp/analysis/>



## 「“そうだ、図書館へ行こう。”－図書館活性化の取組み－」

九州国際大学図書館 坂田 絵里奈

近年の18歳人口の減少に伴い、大学の多くは入学者数が減少し、図書館利用者数も減少の途を辿っている。本学も例外ではなく、入学者の減少とともに予算の削減や施設面の制約など、図書館を取り巻く環境は良いとはいえない。また、「知の宝庫」とも称された図書館の役割と機能も変化し、従来の枠組みに捉われない多様性が求められるようになってきている。そこで、中小規模の大学だからこそできる図書館活用法や、細やかなサービスはないものか、マイナス要素をプラスに転換するための発想の転換など、本学図書館の活性化に向けた取組みの一例について以下に報告する。

まず、①館内のレイアウトの見直し、主に展示コーナーを中心に着手した。学習環境や教育支援を強化するために、これまでの学習支援コーナーや就活コーナーなどの書棚のリニューアルと学部の特徴を活かした図書の収集を実施した。次に、②選書ツアーや感想文コンテストを開催し、教員や学生も参画した全学的な体制のもとに実施するようにした。また、③1年次生全員が受講する入門演習のクラスごとに、図書館ガイダンスを実施している。これは、まずは図書館に興味を持てるようにする観点から、2～3人一組になりゲーム感覚で「本・雑誌探し」をするところからはじめている。さらに、④図書館に親しみを持ってもらう方法の1つとして、「マスコットキャラクター:KIULi(キウリ)」を作成した。主に館内掲示物や配布物に使用し、このキャラクターは図書館雑誌や2010年度の図書館総合展で紹介された。

以上の取組みや活動の積み重ねにより、2010年度の図書館利用者数と貸出冊数は確実に増加し、図書館に「滞在する」学生も多くなったように感じる。それでもまださらなる環境整備や外部資金も含めた予算の獲得、理解ある協力者の確保などの課題は残る。それゆえに、「学習・教育・研究」を支えるライブラリアンとして一層の創意工夫を図っていきたいと考える。